

# 赤谷の 森だより

Akaya no moridayori



赤谷プロジェクト地域協議会  
財)日本自然保護協会  
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

## ●赤谷の森写真館 赤谷の森に舞う、美しいチョウたち ②③

- 「人工林を自然に戻してみよう」という試み…4-5
- サポーター活動の紹介……………6
- 「ムタコの日」森林再生講座の報告……………6
- 赤谷プロジェクトの活動……………7

イベント情報／赤谷プロジェクト活動日誌

- 自然は、素晴らしい資源……………8  
みなかみ町観光協会 施井真希子さん
- 新メンバーの紹介……………8
- 赤谷プロジェクト、って?……………8



木を倒す時に  
できる木片だよ!

## 8月7日 「ムタコの日」 —森林再生講座—

林の手入れをしてくれて  
ありがとう。  
木片は、いい白いなんだ!



次回は10月2日、  
水生昆虫観察会だよ。  
7ページを見てね!





赤谷の森  
写真館

赤谷の森で確認できたチョウの種類は、71種もあります。日本にいるチョウは約240種と言われますから、なんと国内の30%近い種類が、赤谷の森で見られることに！

赤谷プロジェクトのベース「いきもの村」周辺にも、ヨモギなどを食べるヒメシジミや滑空が上手なオオミスジ、墨流し模様とオレンジの口もとがエキゾチックなスミナガシ、それに国蝶でエゾエノキを食べるオオムラサキなどが飛んでいます。

赤谷の森に舞り、

美しい  
チョウ  
たち

高山、森林、雑木林、草地：いろいろな環境のある赤谷の森には、四季折々さまざまなチョウが登場！ 全国の約30%のチョウが見られます！



スミナガシ

墨流し模様がシックで、オレンジのくちもとがエキゾチックなチョウ、スミナガシです。 撮影：小林茂男



ヒメシジミ

準絶滅危惧種のヒメシジミです。「いきもの村」やうだばら、三国山頂付近まで広範囲に生活しています。 撮影：小林茂男



オオムラサキ

国蝶に指定されています。タテハチョウの仲間では日本一の大きさです。 撮影：出島誠一



オオミスジ

ミスジチョウの仲間では、最大のチョウです。「いきもの村」付近の、梅林を滑空しています。 撮影：小林茂男



ジャノメチョウ

よく見るでしょう、このチョウ。『ジャノメチョウ』といいます。かわいがってね。 撮影：小林茂男



コムラサキとカブトムシ

「いきもの村」の柳は、昆虫酒場。コムラサキをはじめ、カブトムシにクワガタ、オオムラサキもやってきます。 撮影：小林茂男

森の人気者！

いきもの村酒場 OPEN!



うだつばらやスキー場など開けた草原には、ススキを食べるギンイチモンジセセリや、スミレを食べるミドリヒョウモンなどがよく見られます。

**多様な環境は、地域の宝**

林に入ると、緑色に輝くアキノミドリシジミやジョウザンミドリシジミなどの美しいチョウが、クヌギやミズナラの周りを舞っています。

山頂近くの花畑になると、オレンジの紋がかわいらしいベニヒカゲ、オニシモツケを食べるコヒョウモン、ヤナギやダケカンバを食べるキベリタテハなどが生活しています。

このようにたくさんチョウが見られるのは、高山、森林、雑木林、草地（牧場・採草地）というさまざまな環境に、たくさん種類の植物があるから。この環境は地域の宝です。大切に守りましょう。



コヒョウモン

三国山のお花畑付近に生活している、かわいらしいコヒョウモンです。撮影：小林茂男



アキノミドリシジミ

樹々の上空で、オス同士が縄張り争いで空中戦をすると、太陽に輝いたエメラルドの粉末が風に舞います。撮影：前田修



ギンイチモンジセセリ

セセリチョウにしては細い腹部で、飛び方もほかに比べると早くはありませんが、金色に銀一筋が粋です。撮影：前田修



キベリタテハ

赤ワイン色のまわりを、黄色に縁どったきれいなチョウですが、なぜか男性的な感じがします。撮影：前田修



ベニヒカゲ

峠の菅っばらでひよろひよろ飛び、疲れると石の上でひなたぼっこ。羽の紋が、タスキの目みたい。撮影：藤田卓



ミドリヒョウモン

夏の代表的なヒョウモンチョウの一種で、翅裏（羽の裏側）は緑色のしま模様です。見えないのが残念！撮影：前田修

撮影：小林茂男



**A** 枯葉におりると同じ色になってしまつ、サカハチチョウです。不思議ですね！



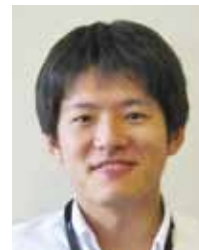
**Q** チョウを探してみよう！さくさく、どこにいる？

**クイズ**

赤谷の森でわかったこと

# 人工林を自然に 戻してみよう

という試み

塚田 夢人  
つかだ むと

● 東京農工大学森林生態学研究室 O B

## 人工林を自然に戻す、 「天然更新」という方法

日本の森林は、人が手入れをすることで維持されてきました。特に林業を行っている人工林は、植栽・枝打ち・間伐など、こまめな手入れが必要です。

しかし、最近の林業経営は苦しい状況にあり、手入れが行き届いていない森林が各地で見られます。

このような森林では地面まで光が届かず、森林で暮らす動植物の生活の場所が減ったり、土砂崩れが起こりやすくなりました。

そこで、「手入れができなくなった人工林を自然に戻そう」という動きが起きています。赤谷プロジェクトでは、どのような方法がより早く元の自然に戻すことができるのかを調べるため、伐採幅を変え、種子や苗を植えないで自然に任せる、「天然更新」という実験をしています。

## 20 m、30 m、40 m 伐採幅を変えてテスト

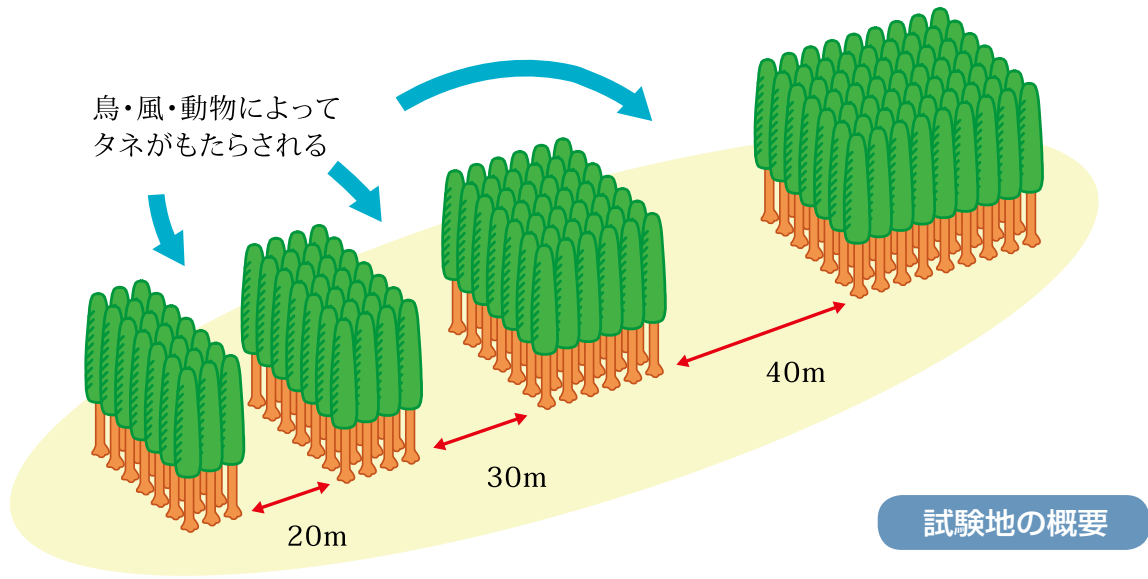
実験をしている森林は樹高 30 m のカラマツ林で、2006 年に全体の 50% を伐採しました。その際、伐採幅を 20 m、30 m、40 m と 3 段階に変化させ、伐採後の様子を観察しています。

伐採直後は、出てきた芽が次々にシカやウサギに食べられてしまったこともありま

した。  
しかし、年数が経つにつれて食害が少なくなり、ウワミズザクラ、エゴノキといった成長の速い樹木や、クマイチゴ、タラノキといった明るい環境を好む低木がたくさん生え、今では、人が隠れるくらいのやぶになっています。

木の高さの平均は、伐採幅が広がるにつれて 1.5 m、2.0 m、2.5 m と高くなり、大きい樹では 4 m を超えるものもあります。





30m幅の伐採跡地。2mのポールが隠れます

### ほかより早く自然に戻る 赤谷の森の力

一方、本数は逆に、伐採幅が狭い場所ほど多くなり、幅の狭い場所では光をめぐって競争しているかのようです。光が十分に当たる40m幅の伐採地では成長が速く競争が一段落し、競争に勝った精鋭たちが順調に成長しています。

この精鋭の中には、本来の自然の構成種であるクリやケヤキなども含まれ、伐採幅が広いほど、早く元の自然に近い状態に戻りそうです。

伐採前からササがあった場所では、伐採



ササに覆われた伐採跡地。ササの高さは約70cm

後に一面にササが広がってしまい、ほかの木が生えにくい状態が続いています。

また、伐採後に幹や枝、葉を残したままにしておくと、これらが腐った後に、少し遅れて新しい木が生えるようです。そのため、場所や方法をきちんと考えてから、作業に取り掛かなくてはなりません。

ほかの地域での結果と比べると、赤谷のカラマツ林はほかより早く、本来の自然が復元できるようです。

この理由をあきらかにするとともに、引き続き成長を観察しながら、今後の管理の方法について検討していきたいと考えています。

# サポーター活動の紹介



ホンドテンを調査中のサポーター

「赤谷の目」では、サポーターが中心となり、毎月ホンドテンのモニタリング調査を続けています。ホンドテンのモニタリングといても、生息数や生態を調査しているのではなく、テンがこの赤谷の森をどのように利用しているかを調べることによって、森林環境やその変化を評価できないかという試みです。

## なぜホンドテンなのでしょうか？

テンは夜行性なのであまり見ることがありませんが、全国各地に棲んでいる身近な動物です。環境



ホンドテン

への対応能力も高く、海辺から山地まで幅広く暮らし、また食べる物もバリエーションに富んでいて、動物や植物の果実、昆虫や鳥などさまざまなものを食べることで知られています。こうした特定の環境や食べ物に偏らないテンを、赤谷プロジェクトでは指標動物としました。

調査の方法は、テンの落とし物(ふん)を拾って、何を食べているのかを分析します。今までの調査で赤谷の森のテンが、どのような物を食べて生活しているのか、見えてきました。また、いくつもの疑問も浮かび上がってきます。これからも、そんな疑問を解く調査を進めていくつもりです。

AKAYAプロジェクト・サポーター  
青木邦夫

AKAYA PROJECT SUPPORTER



だんだん上手になるね！



夏休み的一天、林の中で汗を流しました



たくさんの生きものも見つけたよ

夏の「ムタ」の日で、

# 木、きったよー！



「力はいれないでいいよ。引くときに切るんだよ！」  
ギーコ、ギーコ、夏休み真っ盛りの8月7日、赤谷の森にノコギリの音と子どもたちの声が響き渡りました。

後半は生きもの観察。地面に小さな穴を見つけました。「何だろう？」「ヒメネズミの穴かもね」。石の下にも、ほら、たくさんのお虫たちがすんでるよ。楽しかったね！ また来年もね！

この日は、「ムタ」の日の森林再生講座。「林は手入れをしないと、いい木が育ちません。光を入れるために木を切ります」という説明を受けて、いざ林の中へ。ひんやりした空気が身体を包みます。しばらくするとあちこちから、ドーンという木の倒れる音が。切った木片は湿り気があって、「いい匂いだね。ひんやりしてるよー！」



6月～9月 赤谷プロジェクト 活動日誌

活動日	活動内容(活動場所)
6月 5日	平標山山開き(平標山)
6月11日	第3回南ヶ谷湿地保全管理計画検討会(高崎市)
6月14日	(独)国際協力機構(JICA)研修(いきもの村ほか)
6月26日	「赤谷の森」自然観察ハイキング(小出俣)
7月 7日	調整会議(利根沼田広域観光センター)
7月 9日	NPOぐんま緑のインタープリター協会現地研修会(いきもの村ほか)
7月10日	三国自然歩道ハイキングツアー(旧三国街道)
7月16日	第4回南ヶ谷湿地保全管理計画検討会(高崎市)
7月16~17日	自然林復元100年モニタリング調査会(いきもの村ほか)
7月17日	濁度・土壌浸透能調査(ムタコ沢)
7月18日	大峰山自然観察ハイキング(大峰山)
7月21日	新治小学校5年生サマースクール(高原千葉村)
7月27日	国有林モニター会議(いきもの村ほか)
7月30~ 8月2日	湘南学園夏合宿環境教育(三国山ほか)
7月31日	「赤谷の森」自然観察ハイキング(小出俣)
8月 2日	ムタコの日実行委員会(新治支所)
8月 7日	ムタコの日(ムタコ沢)
8月23~24日	センサーカメラ一斉調査
8月26~27日	韓国からの研究者来訪(いきもの村ほか)
8月28日	猿ヶ京温泉まつり(赤谷湖)
9月10日	ムタコの日実行委員会(猿ヶ京多目的集会所)
9月11日	三国自然歩道ハイキングツアー(旧三国街道)
9月16日	企画運営会議(みなかみ町中央公民館)
9月17~18日	東日本林業経済研究会(小出俣ほか)
9月24日	「赤谷の森」自然観察ハイキング(小出俣)
9月25日	大峰山自然観察ハイキング(大峰山)

○各ワーキンググループ会議

- 溪流環境復元:6月20日、8月22日(現地検討会)
- ほ乳類:6月23日
- フィールド利用:8月8日
- 環境教育:8月10日(現地検討会)
- 猛禽類:8月16日

○赤谷プロジェクト地域協議会定例会

6月5日、7月3日、8月7日

○赤谷の日(いきもの村ほか)

6月4日~5日、7月2日~3日、8月6日~7日

○猛禽類調査(赤谷の森全域)

6月3日、10~12日、14日、22日、26日、28日、7月1日、6日、8日、10日、13日、14日、30日、8月5日、11日、25日、30日、9月7日、10日、11日、13日、20日

○ホンドテンモニタリング調査

(赤谷の日以外の調査日、赤谷の森全域)

6月18日、19日、7月10日、16日、17日、18日、23日、24日、8月13日、14日、27日、9月10日、11日、18日、19日

赤谷プロジェクトの活動

イベント情報

「ムタコの日」のお知らせ

秋の「ムタコの日」、水生昆虫観察会開催です!

水源の沢にすむ、小さな命をのぞいてみよう! 新治地区の水源・無多子沢で、水源の自然を学ぶ催しです。ご家族そろってご参加下さい。

【実施日】10月2日(日) 12時30分(集合)~16時終了予定

【集合場所】みなかみ町営赤沢スキー場

【参加費】傷害保険料1000円

【募集対象】小学生以上(小学生は保護者同伴)

【注意事項】屋食は済ませてからお越し下さい。

【荒天の場合中止】水に濡れても大丈夫な服装

(長袖、帽子、軍手、長靴など)で、着替え、

タオル、雨具、飲み物持参。

【申し込み先】赤谷プロジェクト地域協議会

事務局 ☎090(2249)2119(20~21時)

【募集締切】9月25日(日)

【主催】赤谷プロジェクト地域協議会

赤谷の森に行こう! 赤谷の森自然散策

秋の「赤谷の森」を散策しませんか!

【実施日】10月23日(日)

【集合場所・時間】関東森林管理局(前橋市)

9時出発↓利根沼田森林管理署(沼田市)

9時50分出発↓終了時間15時30分(現地)

【参加費】無料 先着20名

【募集対象】小学4年生以上(小中学生は保護者同伴)

【服装など】自然散策ができる服装(長袖、

帽子、長靴)雨具、飲み物

【申し込み先】赤谷森林環境保全ふれあいセ

ンター ☎0278(60)1272

【募集締切】10月17日(月)

## 赤谷プロジェクトに望むこと

### 自然は、素晴らしい資源



みなかみ町観光協会

施井 真希子

私がみなかみ町を訪れたのは、約2年半前。

父の仕事の関係で国内外を転々とし、その後10年間会社勤めをしたのちでした。現在は、観光協会でみなかみのおすすめをお客さまにご案内したり、PRをする仕事に携わっています。

「町のウリは何?」と、よく聞かれます。

みなかみにはすばらしい観光資源がたくさんありますが、その中でも「超一流の自然」、そしてそれらが体験できる、施設・業者・ガイドなどの周辺環境が整っていることなのではないかと、ひしひしと感じております。

18湯ある豊かな温泉、川も山も特級、おいしい水に育まれたフルーツや野菜。

赤谷の森も、豊かな自然林、絶滅危惧種を含めたさまざまな動植物を多く有しており、私も昨年はいきもの村の観覧会、そして今年は三国自然歩道ハイキングツアーに参加し、毎回、自然の豊かさに感動しております。

今後これらのすばらしい資源をわかりやすく、楽しく、体験いただく機会を、町・商工会・観光協会と共に連携して取り組み、多くの方にみなかみに訪れていただける機会が増えることを望んでおります!

### 赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして、活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる3者がともに活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、旧新治村三国山脈に広がる、約1万ヘクタール(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから、「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生きものの調査や研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第1土・日曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。また地域協議会では、子ども向けの「ムタコの日」なども開催しています。

どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。お待ちしております!

### 新メンバーの紹介



関東森林管理局 赤谷森林環境保全ふれあいセンター所長

廣橋 潤

出身地は福島県いわき市。「自然環境の保全に関心があります」と言って林野庁に入ったものの、そのような業務に携わることなく今に至りました。この度、赤谷の森づくりに参加できることとなり、嬉しさ半分、不安半分。育休明けで少々(?)ぼけているかも知れませんが、関係者の皆様と一緒に「赤谷の森づくり」に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひします。

本誌や赤谷プロジェクトに関してのお問い合わせ先は、こちらへどうぞ!

#### 赤谷プロジェクト地域協議会

代表幹事 林 泉  
TEL.0278-66-0888  
事務局長 安田 剛士  
TEL.0278-22-2119  
<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>

#### (財)日本自然保護協会

プロジェクト担当 出島 誠一  
TEL.03-3553-4107  
<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>  
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

#### 林野庁関東森林管理局 赤谷森林環境保全ふれあいセンター

所長 廣橋 潤  
TEL.0278-60-1272  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html)  
メールアドレス akaya\_postmaster@rinya.maff.go.jp